

# 芸術文化だより

第59号

令和5年3月25日

発行者

習志野市芸術文化協会

会長 中谷 時男

編集長 小笠原仁仙

◆習志野市芸術文化協会／広報◆

題字 吉原 聚堂



令和5年新年会員交流会 ハラウ オ ケアラ ロゼラニ

令和五年一月十六日、自粛していた芸術文化協会の新年会員交流会を催した。

未だコロナ禍の中、一抹の不安を抱えての開催でしたが、宮本泰介市長をはじめ大勢のお客様をお招きし、会員を含め七十五名参加の楽しい交流会になりました。

会場はオープニングステージの洋舞連盟、ケアラロゼラニの皆様との和らかな優雅な舞で一瞬にして和み、澤田副会長の名司会の進行のまま順調に進み、終盤、順例の習志野音頭は、坂東一二三師匠率いる舞いの輪に全員が引き込まれ、楽しく閉めることができました。

新年会の事前の準備から開催まで尽力いただいた役員の皆様、たいへんご苦労さまでした。改めて、新年交流会の開催おめでとうございます。

令和の新しい時代の入口から、大きな自然災害にみまわれ、未だコロナ禍の中、今、世界は、

## 変動の時

習志野市芸術文化協会会長

中谷 時男

戦火の中の災害が重なり、変動の時であります。

その中で私達創作者は如何になし、果たすべきか、真摯に立ち向わなければならぬ。

令和五年は、私達芸文協も、変動の時であります。習志野の文化の要であります文化ホールも建て替えのため暫く使用できません。

書道や絵画・工芸・写真・蒐集等、展示部門はもとより、音楽・日舞・洋舞等の上演部門は練習や発表の場を段取りしていかなければなりません。

いずれにしても、習志野の芸術文化は、習志野で継続してゆくものと考えております。

新しい文化ホールが再建されるまで数年（七～八年）実のある活動を続けたい。

ここ数年、芸文協の会員は減少傾向にありますが、器（組織）の中、物体（人）は少しの揺れや歪みで、より強固なものになります。

これから続く「変動の時」を、しっかりと歩みたいと思います。